

「書くこと」領域における授業実践例

- ① 学年・単元名 第3学年「しょうかいして、感想を伝え合おう」
- ② 単元のねらい 自分の考えと、それを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。
- ③ 指導の工夫 紹介文を手書きではなく、Word を用いたデジタルの作品にした。文の内容を訂正する際、消しゴムを使わずに直すことができたり、構成を考えたりする際、コピー＆ペーストで構成の順を入れ替えることが容易であったりして、書くこと自体に苦手意識を感じている子どもの抵抗感を取り除いた。
- ④ 活用したツールと利点
 - Teams** 第1時に完成モデルを示し、子どもたちがいつでも活用できるようにする。
 - Sky Menu** 提出箱で仲間の作品を相互に確認できる。
 - Word** 書くこと自体の抵抗を減らす。画像の挿入が容易にできる。

⑤ 実践内容

はじめて絵の具を使ったよ

3年2組

わたしのお気に入りの作品は、図工の時間でかいた海の中の絵です。

海の中で魚たちが楽しそうに泳いでいる様子を、絵の具とクレヨンを使ってかきました。はじめて絵の具を使ってかいた作品です。



この作品をしょうかいしたい理由は、三つあります。

一つ目は、クレヨンは絵の具をはじくというところを嫌ったからです。生き物たちのりんかくは、ペンではなくてクレヨンを使って書きました。だから、えのぐがはみ出してもきれいにぬることができました。

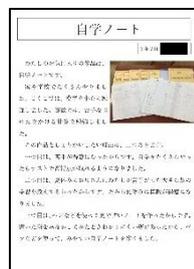
二つ目は、自分の思った通りの色を作ることができたからです。海の水の色を作るために、青色と白色と、ほんの少しの黒色の絵の具をまぜました。その黒色のおかげで、海のそこの少し暗い感じが出せたと思います。

三つ目は、〇〇さんが、「上手!」とほめてくれたからです。絵の具でぬるのはむずかしかったけれど、がんばってかいてよかったなあと思いました。

子どもたちが同じ様式のシートで学習ができるように、報告書の枠を Teams で配信し、各々の iPad に保存して自分の学習活動に生かせるように進めた。

画像の挿入が容易にできる。「図の変更」という機能を使えば、報告書の枠で示した図の大きさに自動変換されるため、大きさや位置の調整といった学習活動を省略できる。

既習である、組み立てを考えて書くこと、適切な事例を挙げて構成や順序、絵や写真の表し方を工夫することを生かしながら表現活動ができる。そして、本単元で高めたい力であった、「他者を意識して話題に沿った内容選択をし、それを伝えるための構成や言葉の工夫を検討しながら書く力」を効果的に高めることにつながった。



第1時で子どもたちに示したモデル

子どもたちが作成した作品

⑥ 成果と課題（実践するときの留意点など）

○Word を用いて「書くこと」の作品を作ることにより、文字を書くことに苦手意識をもっている子どもたちの抵抗感を取り除くことができた。

○構成（伝えたい順番）を考える際、短冊などを作らなくても画面上で文の入れ替えをすることができ、読み手を意識した作品作りをすることができる。

△キーボードの学習は3年生の後半なので、実施できる学年が限られる。